



東日本大震災現地NPO応援基金〔特定助成〕  
**大和証券フェニックスジャパン・プログラム**  
ー被災地の生活再建に取り組むNPOの人材育成ー  
フォローアップ事業  
[育成スタッフによる組織の課題解決プログラム助成]

**実施報告書**

(2022年4月～2023年3月)

2023年6月1日

認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター

● **本プログラムについて**

大和証券フェニックスジャパン・プログラム（以下、大和証券 PJP）は、大和証券株式会社に「ダイワ・ニッポン応援ファンド Vol.3－フェニックスジャパン－」の信託報酬の一部をご寄付いただき、認定特定非営利活動法人日本NPOセンターが「東日本大震災現地NPO応援基金」の特定助成として、2012年から2020年にかけて特定非営利活動法人市民社会創造ファンドと協力して実施したものです。

東日本大震災の復興支援（被災者の生活再建等の支援）のため、NPOの果たす役割には、大きな期待が寄せられていました。しかし、その組織基盤は弱く、必要な支援を自力で安定的に供給するためには組織の基盤強化が必要であることから、特に適切な人材の確保と育成が不可欠と考えました。大和証券 PJP では、そのような人材を雇用から支援し育成することで、被災者の生活再建へ寄与することを願いました。

日本NPOセンターでは、2020年の助成最終年度の終了に伴い、この間に育成対象となったスタッフに向けたフォローアップ事業を行いました。大和証券 PJP の助成を受けた当時の育成対象職員が組織の課題解決に向けて、企画立案から実行までを自身で遂行する活動を支援し、スタッフとしてのさらなる成長に資することを目的としています。

● **プログラム概要**

- ・プログラム名 東日本大震災現地NPO応援基金〔特定助成〕  
大和証券フェニックスジャパン・プログラム フォローアップ事業  
[育成スタッフによる組織の課題解決プログラム助成]
- ・助成対象 大和証券フェニックスジャパン・プログラム（2012-2020）の助成を受けたことがあり、現在も岩手県、宮城県、福島県のいずれかに事務所を置き、活動を行っている団体で、助成当時の育成スタッフが中核人材として活躍している団体
- ・助成期間 2022年4月1日～2023年3月31日

【助成対象】 5件／助成額：923万円

No.	プロジェクト名	団体名	所在地	金額 (万円)
1	近隣地域ボランティア獲得を目的としたプログラム作成と組織形成	認定特定非営利活動法人 桜ライン311	岩手県 陸前高田市	193
2	ワークフローシステム構築とインターネット広報プロジェクト	特定非営利活動法人 みんなのひろば	福島県 伊達市	147
3	未来をもっと明るい方につなげたい！ 応援の輪展開事業	特定非営利活動法人 未来図書館	岩手県 盛岡市	200
4	和ぐるみプロジェクトの新展開を担うための実践スキルの獲得	一般社団法人 SAVE IWATE	岩手県 盛岡市	199
5	働き方・業務改善及びSDGs理解 強化事業	特定非営利活動法人 チームふくしま	福島県 福島市	184

## ● 助成プログラムの経過と結果

本事業は、2022年4月1日から助成を開始し、2023年3月31日に1年間の助成期間を終了した。助成対象団体は5団体、育成対象スタッフは5名であった。事務局は、助成対象団体へのフォローアップとして、報告レポートの確認、中間インタビューに加え、適宜相談対応を行った。

### No.1 認定特定非営利活動法人 桜ライン311

近隣地域ボランティア獲得を目的としたプログラム作成と組織形成

実務担当者名：事務局長 佐々木 良馬

#### 団体の概要

津波被害の浸水域を視覚的に残し、被害を受けた世代だけではなく次の世代にも有事の避難における具体的な目安となるよう津波の到達地点に桜の植樹を行う。活動は地域住民だけでなく全国から参加者を募り、教訓に学ぶ防災・減災の取り組みへと繋げている。

#### 助成による事業の内容

植樹した桜のメンテナンスの人手不足が組織課題であることから、日常的に参加してくれるボランティア獲得を目的として、①関連知識の習得と組織体系の見直し、②ボランティア参加可能なシニア層をターゲットとしたイベントの開催、③日常的なボランティアに必要な作業物品の整備を行った。

#### 成果と今後

実務担当者は、シニア層向けのイベント実施などを通して、企画立案および実行する力を身に付けることができた。うまくいく・いかない要因を外部研修に参加しながら、企画を実施することでボランティアの参加や活動の継続の流れについて多くの学びが得られた。また、組織として組織の弱みや優先的に取り組む課題についての共通認識を持てたことが良い変化につながり、具体的な改善ポイントの把握にもつながった。対面の場合やSNSの有用性を確認できたことから、今後も日常的なボランティア参加者の獲得に取り組む。

代表者：岡本 翔馬

・所在地：岩手県陸前高田市

・設立年：2011年

・活動地域：岩手県陸前高田市

・<https://www.sakura-line311.org/>



### No.2 特定非営利活動法人 みんなのひろば

ワークフローシステム構築とインターネット広報プロジェクト

実務担当者名：事務兼児童指導員 斎藤 智子

#### 団体の概要

フリースクール・放課後等デイサービス運営・相談支援事業などを通して、不登校でも、障害があっても夢を持って安心して活動することができる地域づくりを行っている。

#### 助成による事業の内容

拠点の拡大とスタッフの増加にともなって、書類やワークフローが煩雑化したり、スタッフの学びに差異が出てきた。そのため、①法人内ワークフローシステムの構築（クラウド型）、②法人内研修環境の整備に取り組んだ。また、高等部事業の周知に課題があるためターゲットを絞った③高等部事業のインターネット広報の強化にも取り組んだ。

代表者：斎藤 大介

・所在地：福島県伊達市

・設立年：2004年

・活動地域：福島県伊達市

・<http://minnanohiroba.org/>



## 成果と今後

ワークフローシステムを導入し、業務日誌、有給休暇届などがクラウド化され、所内の状況や利用者の状況がすぐに把握出来るようになった。研修については、月に一度、3事業所が集まって全体研修を行った結果、職員全体として業務に対しての意識が上がっている。広報については、Webサイト・SNSの活用・広報活動の見直しを行い、YOUTUBEのCM契約を行った結果、実際に2名が高等部に入学することとなった。これらのプロセスにおいて、社内でのコミュニケーションが活発になり実務担当者自身の広報意識の変革にもつながった。

## No.3 特定非営利活動法人 未来図書館

未来をもっと明るい方につなげたい！応援の輪展開事業

実務担当者名：デザイナー／コーディネーター 田上 孝幸

### 団体の概要

「子どもと社会をつなぐ」ことを活動目的とする。主に小・中・高校の授業など独自に開発したプログラムを行い、子ども達が直接社会人の仕事や生き方を知り、自らの将来を考えるきっかけの場を創出している。震災の影響を受けている沿岸地域でも活動を行う。

### 助成による事業の内容

子どもを対象にしたプロジェクトの継続には、安定的な資金の獲得が必要である。そのためにも中長期的なビジョンの明確化と団体の発信力の強化が課題となっていた。そこでパートナー企業の開拓に向けたPR冊子の作成や寄付者対象のイベントの実施を行った。

- ・代表者:古澤眞作
- ・所在地:岩手県盛岡市
- ・設立年:2004年
- ・活動地域:岩手県盛岡市、ほか
- ・<http://www.miraitoshokan.com/>



## 成果と今後

地域に根差した先進的な取り組みを参考にしながら、企業開拓に向けたPR冊子を作成することができた。あわせて過去に同団体のプログラムに参加した学生たちから同団体の価値を語る動画を作成しHPで発信した。これらをもとに企業回りも行い、金融機関や組合としてのパートナーシップ締結につながるとともに団体として過去最高の寄付金を得ることができた。実務担当者は、今まで以上に積極的に事業に関わるようになり、団体のミッションを話せるようになった。今回の取り組みを通じて、未開拓の企業の存在を強く感じたことから、今まで以上に丁寧に企業や個人の寄付者へのアプローチに取り組んでいく。

## No.4 一般社団法人 SAVE IWATE

和ぐるみプロジェクトの新展開を担うための実践スキルの獲得

実務担当者名：りあすぱーく販売担当 山田 初美

### 団体の概要

震災甚大な被害を受けた岩手県沿岸地域において、市民等と協働し、被災者の救援、生活再建や被災地域の復興支援活動に取り組んだ。現在は、盛岡を拠点に、被災者の就労支援と生きがいづくりのため、和ぐるみによるビジネス創出のほか、裁縫や樹皮細工による手仕事、被災地の物産販売などを実施している。

### 助成による事業の内容

同団体が10年にわたり取り組んできた、和ぐるみを活用した産業の持続的な発展のためには、これまで以上に消費者の和ぐるみの認知度・知名度の向上や市場の拡大が急務である。そのためインターネットの活用・イベント実施・広報パンフレットを作成し、積極的な広報活動を行った。

### 成果と今後

広報パンフレット、イベントの実施により徐々に復興応援の店「りあすぱーく」の来店者数増加につなげることができた。実務担当者は広報ツール作成のための情報収集や取りまとめのプロセスにおいては、理事や他のスタッフの力を借りた。それによって、作業を客観的に見ることができ、1人で頑張りすぎないことの重要性や他のスタッフの特性を把握することができた。また、これまで以上に情報共有を意識して行うことにより、販売意識の向上と商品説明力の向上にも繋がった。今後も各種ツールの作成経験を活かし、より充実した広報ツールの改善をはかっていく。

- ・代表者: 理事長 寺井良夫
- ・所在地: 岩手県盛岡市
- ・設立年: 2011年
- ・活動地域: 岩手県盛岡市
- ・<https://sviwate.wordpress.com/>



## No.5 特定非営利活動法人 チームふくしま

働き方・業務改善及び SDGs 理解強化事業

実務担当者名：プロジェクトリーダー 清野 巽

### 団体の概要

「For you For japan」を理念に掲げ、福島から日本を元気にする活動を行っている。主にひまわりを全国各地で「里親」として育て、花を咲かせて採種し、その種を福島で「復興のシンボル」として咲かせることにより、福島と全国との絆を深める「福島ひまわり里親プロジェクト」を行っている。

### 助成による育成事業の内容

少ない人数で業務を進めると組織課題が見えづらく、各種事業が俗人化するという課題があった。そのため、外部の第三者のコンサルティングを受け、業務の整理と見える化、マニュアル作成や広報ツールの活用など業務プロセスやツールの改善に取り組んだ。

- ・代表者: 半田 真仁
- ・所在地: 福島県福島市
- ・設立年: 2009年
- ・活動地域: 福島県内避難地域
- ・<https://www.sunflower-fukushima.com/>



### 成果と今後

業務の俗人化に対しては、ウェブアプリケーションを用いて業務の整理・見える化とスケジュール管理を行った。またテレワークの環境整備を行った結果、事務所不在時でも情報の共有が可能となった。広報ツールについては、各種 SNS の活用方法を学び、フォロワーの獲得につながった。第三者のコンサルティングにより客観的な視点が加わり、伴走支援を受けたことで、実務担当者自身の団体の見え方が変わった。それにより、これまで以上に改善点や提案を出せるようになった。今後は、実務担当者のみならず事務局全体として業務の提案や改善に充てる時間を設けることで、事務局のさらなる基盤強化を進めていく。

以上

---

作成：認定特定非営利活動法人日本NPOセンター  
〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 245  
TEL：03-3510-0855 / FAX：03-3510-0856